

ちばてつやさんの
作品に生きる

思い出のすみだ

多くの人の胸を熱くした伝説のボクシング漫画「あしたのジョー」。
作者のちばてつやさんは、小学校3年のときから
高校を卒業するまですみだで暮らしました。
作品のなかには、懐かしいすみだの風景や下町の風情が色濃く描き出されています。



隅田公園の瓢箪池で泳いだ？ やんちゃだった少年時代

ちばさんが初めてすみだで暮らした家は小梅町（現・向島）にありました。今でもその家や町並みは「目をつぶっても描けるくらい」よく覚えていると言います。

「最初に住んだ家はね、バラック建てでした。6畳と4畳半と台所があって、便所があって押入れがあって。天井板がないですよ。柱が全部見えて。壁に節があると、こうやって押すとぽこっと抜けるんですよ。穴が開くとお隣の家が見える（笑）。夏は涼しいけれど、冬は寒くてね。そこから雪が入ってきて、布団の上に雪が積もったり。そこから小梅小学校に通ってたの。家から

10分もかからない。下町ですから、ほとんど塀がないの。家がぼこんぼこん建って。塀のある家なんてお金持ちの家ですからほとんどない。みんな、いきなりがらっと開けると玄間で台所からなにかすすり見えるみたいなの」

両親と4人兄弟の6人家族。ちばさんは4人兄弟の長男でした。ここで、弟たちと元氣いっぱい少年時代を過ごします。

「隅田公園に瓢箪池^{ひょうたんいけ}ってあるでしょ。昔、あそこで泳いだ。汚くてね。泳ぐとね、子どもでもね、産毛に泥が付くんですよ。そうするとね毛が生えたように見えるの。毛深い男になる（笑）。深くはないけど、うちの弟は溺れそうになった。あ、弟が溺れたのは三囲神社の池のほうかな。あそこでザリガニをとったりもしましたよ」

言問橋や吾妻橋から、飛び込んで肝試しもしたと言います。

「私は臆病でできなかつたけど、みんな赤フンで飛び込んだ。真横に手を広げてね、うわー、だー、なんて。飛び込める子は英雄だよ」

小梅町を振り出しに幾度か転居はしましたが、家はずつとすみだにありました。両国にある日大一校に進学したちばさんは、道でお相撲さん

とすれ違うこともたびたび。

「大鷗^{たいゆう}がまだ入門したばかりの頃で、ステテコ履いて、半袖のシャツで草履履いて、自転車乗ってたのを見ましたよ。買いい物にやられたのかな。日本人離れた、色白かわい子だなと思ってたらみるみる強くなっちゃってね。柏戸^{かしほ}も近くの安田庭園に、仲間と散歩に来てましたよ。



profile ● 漫画家。昭和14年東京生まれ。2歳で満州に渡るが、終戦により帰国しすみだで暮らす。昭和31年に漫画家デビュー。代表作に『のたり松太郎』『ハリスの旋風』『あしたのジョー』など。現在は、日本漫画家協会会長を務める。今も、精力的に執筆活動を続け、最新作『ひねもすのたり日記』連載中。

隅田川に架かる橋



言問橋 MAP P55
ちばさんが子ども時代、「肝試し」でここから川に飛び込んだという言問橋や吾妻橋。隅田川に架かる橋は、それぞれデザインや構造が異なることから、橋を見る隅田川クルーズなども人気になっている。



三囲神社 MAP P55.61
〒墨田区向島2-5-17 ☎03-3622-2672
かつては「三囲稲荷」と呼ばれていた古社。創建は定かではないが、社殿には、安政2(1855)年の改築以前の本殿の木材が使用されているという。隅田川七福神のひとつで、恵比寿神と大國神を祀る。



隅田公園 MAP P55
〒墨田区向島1、2、5丁目
隅田川上流、吾妻橋の両岸に広がる公園。ちばさんが泳いだという瓢箪池は、日本庭園の中にある。現在では野球場などのスポーツ施設も充実。桜の名所としても知られる。花と緑が豊かな人々の憩いの場となっている。



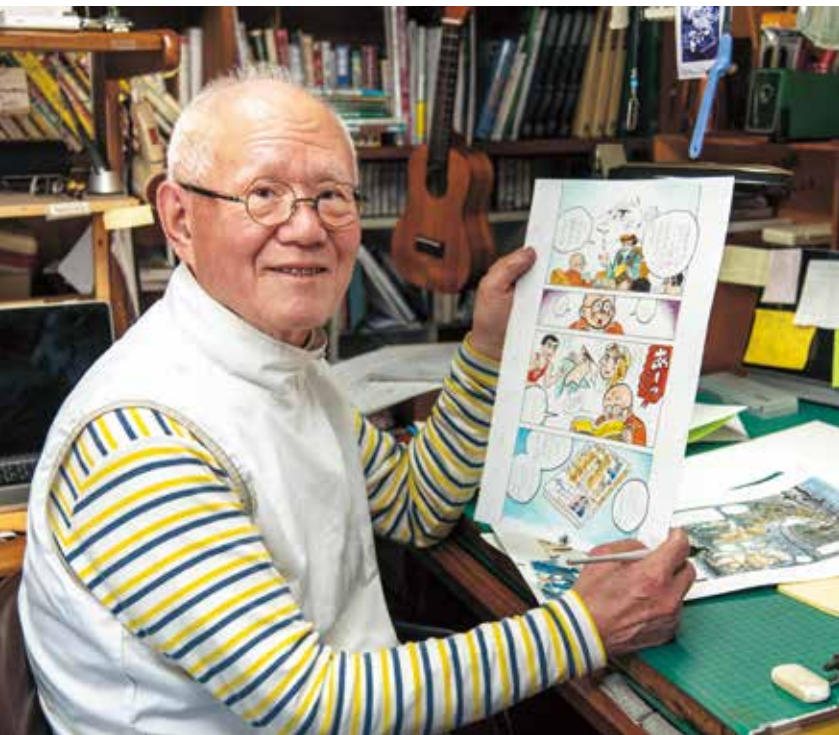
昭和20年代(1945~1954)の隅田川(言問橋付近)
すみだ郷土文化資料館 提供



昭和30年、現在の東向島2丁目交差点あたりから曳舟川通りを望む。(すみだ郷土文化資料館提供・協力: いき出版)



下町がジョーの練習場所だった(『あしたのジョー』)



ぎっしりと資料が詰まった仕事部屋で



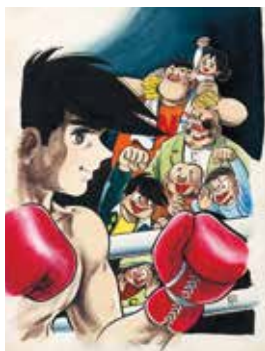
言問団子は江戸時代末期創業和菓子のお舗。厳選された材料で作る3色団子は小豆餡と白餡、味噌味の餡の味わい。

スポーツ漫画の金字塔『あしたのジョー』

(原作/高森朝雄・漫画/ちばてつや)

ちばさんが、昭和43年から48年まで週刊少年マガジンに連載した『あしたのジョー』。今も多くのファンがいるボクシング漫画です。

主人公の矢吹丈が初めて登場するのは、ちばさんが子どもの頃暮らし、慣れ親しんだ下町の風景の中でした。そこからジョーは、大きく羽ばたいていきます。



丹下段平と下町の子どもたちに見守られながら、ジョーは一流のボクサーに成長していく



特等少年院からの永遠のライバル・力石徹との死闘は、『あしたのジョー』ファンを熱狂させた

同窓会に参加しているというちばさん。
墨田区は、今は国内外から多くの観光客が訪れるようになり、2020年の東京オリンピックでは国技館ではボクシング競技が行われる予定です。そんなすみだの魅力はどこにあるのでしょうか。
「東京スカイツリーもできて、きれいになりましたけど、昔は、隣の家にただいまーって入って行って、おかずやなんかをちよつとつまんで、裏から抜けて自分の家に帰るなんて、



向島百花園

MAP P61
墨田区東向島3-18-3 ☎03-3611-8705
江戸の町人文化が花開いた文化・文政年間(1804~1830)に、当時の一流文化人たちの手で造られた庭園。ウメをはじめ、フジやハナショウブ、ハギのトンネルなど、四季折々に美しい花が楽しめる。



牛嶋神社

MAP P61
墨田区向島1-4-5 ☎03-3622-0973
貞観年間(859-879)に慈覚大師が建立したと伝わる。社殿は総檜権現造の見事なもので、狛犬ならぬ狛牛も鎮座。神社内にある石でできた「撫牛」を撫でると、病気やけがが治るといいう言い伝えがある。



墨堤の桜並木

MAP P61
隅田川沿いの桜堤は、江戸時代から続く桜の名所。ソメイヨシノをはじめ、オオシマザクラやサトザクラもある。「きれいだったよ」と語るちばさんが見た桜は今も春には満開の花を咲かせ、多くの花見客が訪れる。

桜の名所



現在も新作を執筆中

ちばさんの作品に生きるすみだの風景、すみだの人

ちばさんの両親は大の本好きで、本はたくさんありましたが、家に漫画は1冊もありませんでした。しかし、漫画のおもしろさを知ったちばさんは、両親に隠れて描き始めます。「おふくろは漫画嫌い。描いたら怒られるから、みんなが寝静まったときに、勉強するふりして、歴史の本やなんかを置いて隠しながら描いてました」
高校2年生の頃、家計を助けるために描いた本が印刷され、初めて原稿料を手にします。「おふくろはぶすつとしてましたよ。複雑だったんでしょね。でもそれからは、夜、メ切に追われて漫画を描いていると、そーっとおにぎりを作ってきてくれるようになりました(笑)」
ちばさんの作品『あしたのジョー』にも、すみだの風景を思わせるシーンが数多く登場します。
「すみだの風景しか描けなかったからね。最初描いたのは、貧しい女の子が主人公の少女漫画。だからバラックや、道のドブ板や…。今も目をつぶつても描けるよ。」
向島百花園は、おふくろに連れて行かれたかな。帰り道に言問団子の縁台で、お茶飲みながら団子を食べました。甘くておいしかったなあ」
今も地元には友達が大勢いて、日大一高のそんなところがあつたんです。下町ですよ。ご近所はみんな親戚みたいで、どこも子だくさんだった。昼間から腹巻してせつた履いて酒飲んでる親父もいましたけど、そういう親父は子どもがバカなことをしたり、いじめなんかしたら怒りましたね。
今でも道を聞くと、忙しいのに出てきて目の地まで案内してくれる。すみだだけじゃなく、日本人で、みんな親切でやさしいな。つてところを世界中の人たちに知ってほしいね」